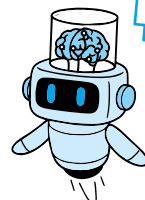




中小企業  
経理の  
生成AI導入  
の基本

vol.1

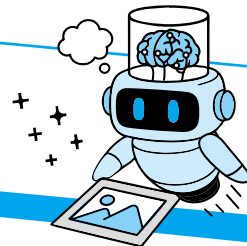
# 新人・成田、 生成AI と出会う



AIにより経理業務がなくなるといわれて、はや10年。生成AIが普及しつつあるいま、生成AIを活用することで日常業務を省力化し、人間にしかできない価値判断に重きを置く発展的な働き方が、経理部門には期待されています。

白井敬祐公認会計士事務所 代表  
公認会計士

白井 敬祐



7月。研修期間を終えた新人の成田亜琉斗は、いよいよ本格的に任される経理業務を前に、期待を胸に抱いていた。

「おはようございます！改めて、よろしく願いします！」

元気な挨拶に、奥から1人の先輩社員が顔を出す。



「倉田蔵人だ。よろしくね！早速だけど、成田くんにはまず、これをお願いしよう

かな」

倉田に案内された先には、うずたかく積まれた紙の山、山、山。領収書、請求書、その他書類が、まるで壁のように成田の前に立ちはだかっていた。



「この領収書や請求書の情報に基づいて、会計システムに仕訳を入力してほしい」



「うわぁ……これ……全部手入力なんですか？」  
思わず心の声が漏れる成田。そ

の様子を見ていた経理部長の自見任三郎が、ニヤリと笑いながら口を開いた。



「ははは、新人くん、面食らってるな！紙と電卓で1つひとつ手作業で処理していくのが、確実にいちばん信頼できるやり方なんだよ！ガハハッ！そういうわけだから、倉田くん、ちょっと成田くんにやり方を教えてやってくれ！」

そう言いながら自見部長は倉田に目で合図を送り、自席にもどっていった。



（小声で）「成田くん……部長はああ言ってくるけど、人の手には限界があるんだ。だからこそ、いまの時代は生成AIをうまく使って効率的に作業を進めなければならぬ」

「生成AI……ですか？」と成田が目を見つめると、倉田は穏やかに頷き、こう答えた。



「そう。AIにもいろいろあって、最近話題の生成AIは、これまでのツールとは少し違うんだ。初心者にもわかりやすく教えるよ」

紙の山と最新のテクノロジー。成田の経理部でのキャリアは、波乱の幕開けを予感させていた。

## 経理にも押し寄せる AIの波

近年、ビジネスの現場における生成AIの浸透はすさまじく、生成AIを利用した各種の業務支援サービスが林立しています。

本連載では、この生成AIが経理業務にどのような変革をもたらすのか、そして私たち経理担当者はその変化にどのように向き合っていくべきなのか、解説します。

今回はまず、「生成AIとは何か」という基本的な理解を深め、従来のITツールとの違いや、経理業務におけるAI活用の最新トレンドについて概観します。

### そもそも「生成AI」って何？ 「ChatGPT」を例に考える

「生成AI」とは、その名の通り、自らが新しいコンテンツ（文章、画像、音楽、プログラムコードなど）を「生成」する能力を持ったAIのことです。

生成AIは、学習した大量のデータを基に、まるで人間が考え出すかのように、オリジナルの成果物を創り出すことができます。

最も有名な生成AIの1つに、米OpenAI社が開発した「C



## ● 生成 AI を活用して作成した本稿の説明資料

### 経理業務におけるAIの波 ～生成AIがもたらす変革～

#### 生成AIとは何か？



大量のデータを元に人間と  
同様の自然な文章や画像を  
生成するAI

例：OpenAI社の  
ChatGPT

	従来のAI (RPAやOCRなど)	生成AI
目的	定型業務の効率化	コンテンツの生成
手法	ルールやパターンに 基づく処理	指示に基づく 柔軟な対応

#### 経理業務におけるAI活用トレンド



仕訳入力自動  
提案・チェック



問い合わせ  
対応自動化



月次・年次決算  
報告のドラフト  
作成



契約書や経理規程の  
要約・リスク分析

※この画像もチャット GPT にドラフトをつくってもらい、細かいところは著者が直して効率的に作成しています。

「ChatGPT」があります。ChatGPTは、人間と自然な言葉で対話することができ、質問応答、文章作成、翻訳、要約、アイデア出しなど、多岐にわたるタスクを実行できます。たとえば、

「経費精算の基本的な流れを教えてください」と入力すれば、わかりやすいステップで説明してくれます。

従来のRPA・OCRとの違いは？  
得意分野を理解する

「AIって昔から聞くけど、なぜ、いまこんなに話題になっているの？」と思われるかもしれませんね。実はAIと呼ばれるものは以前からあり、経理でも「RPA」や「OCR」と呼ばれる技術がいまでも活躍しています。これは特定の作業を正確にこなす、い

わば「職人型AI」です。RPAは、PCでの定型作業を自動化します。たとえば「データをダウンロードしてExcelに転記し集計」といった指示どおりの作業を、正確に繰り返すことができます。経理でいえば、毎月の請求書発行システムからデータを抽出し、会計システムへ入力する作業などがこれにあたります。OCRは、紙の書類の文字を読み取り、データ化する技術です。請求書や領収書に書かれた会社名や金額を読み取り、手入力を助けます。これら従来型AIも生成AIも根本では同じく「学習」というAI技術に基づいていますが、従来型AIが「決められた作業の自動化」や「画像の読取り」など特定の指示された作業しかできなかったのに対し、「生成AI」は、その学習の規模と方法が大きく進化した、人間のように柔軟に考え、文章やアイデアを新たに「生成」できる点が革新的です。曖昧な指示から意図を汲んで文章をつくったり、自然な会話で質問に答えたり。だからこそ、これまでとは違う可能性に期待が集まっているのです。

#### 経理業務を取り巻くAI活用の最新トレンド

現在、経理業務においても、生成AIの活用方法が模索されています。たとえば、以下のような活用が期待されています。

- 仕訳入力自動提案・チェック……領収書データを基にAIが勘定科目を提案
  - 問合せ対応の自動化……社内からの経費精算の質問にAIが自動応答
  - 月次・年次決算報告書のドラフト作成……会計データから報告書の概要をAIが作成
  - 契約書や規程類の要約・リスク分析……長文の契約書をAIが要約し、リスクを指摘
- もちろん、これらの活用方法はまだ発展途上であり、AIの回答が常に正しいとは限りません。しかし、AIを「賢いアシスタント」と捉え、人間が最終的な判断やチェックを行なう体制を整えることで、経理業務の大幅な効率化と高度化が期待できます。
- 今回は、日常業務における生成AIの活用事例と指示出し（プロンプト）のコツなどについて解説いたします。お楽しみに！

